

(様式1)

自 己 評 価 表

(今治北高等学校)

学校番号(16)

教育方針	志を高く持ち、自ら学び考え行動する生徒の育成を目指す。	重点目標	1 将来、それぞれの場でリーダーシップを発揮できる生徒を育成する。 2 海外留学や研修により、国際的視野を持つ生徒を育成する。 3 自分のために、そして誰かのために頑張り抜く生徒を育成する。 4 勇気を出して、一歩踏み出せる生徒を育成する。
------	-----------------------------	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	家庭学習の充実	1日平均の家庭学習について1・2年生は3時間以上、3年生は4時間以上を確保させる。	B	6月と11月の2回の調査の平均家庭学習時間は、1年生86分、普119分、2年生83分、普157分、3年生75分、普201分であった。いずれも目標達成には至らなかった。	課題の量や与え方、部活動との両立、生活習慣の見直しなど、様々な観点で考えていく必要がある。
	学習習慣確立への支援	個別指導・サタディスクールによる学習習慣の確立への満足度90%以上を目指す。 A:90%以上 B:89~80% C:79~75% D:74~60% E:59%以下	C	3年生に対しては、志望理由書や小論文の指導及び面接指導を全教員で分担して行った。1,2年生に対しては、特に普通科のサタディスクールは模試を除けば年間3回のみとなっており、学習習慣の確立に向け、今年度からClassiを導入し個別最適な学習機会を提供したが、その活用がまだ十分とは言えない。	生徒間の学力差や進路希望の多様化を踏まえ、画一的な全体指導とは別に、個別最適な学習機会として導入したClassiを、進研模試前後の課題としてだけではなく、教科担任やホームルーム担任の協力を依頼し、授業の課題や個別学習のツールとして活用を促す。
	朝読書の充実	朝読書を10分間とし、全校生徒で読破7千冊を目指すとともに言語活動の充実を図る。 A:7,000冊以上 B:6,999~5,000 C:4,999~3,000 D:2,999~1,000 E:999以下	C	1月末現在で、3643冊であった。前年度と冊数はあまり変わらない。平均すると一人約4.8冊である。	年間で一人7冊読めば、5000冊以上となる。朝の読書の時間で読むことが可能な冊数なので、朝の読書をさらに徹底させる必要がある。
生活指導	規律ある生活習慣の確立	「遅刻ゼロの日」(開校日で0のつく日を設定)の達成回数を年間12回以上とする。 A:12回以上 B:11~10回 C:9~8回 D:7~6回 E:5回以下	E	1月20日現在、18回実施(うち、1回は臨時休校)し、遅刻ゼロを達成できたのは2回であった。	今年度は全体的に遅刻生徒が多く、1月20日現在、1日平均2人遅刻している現状である。また、特定の生徒が遅刻を繰り返しているため、基本的な生活習慣を確立させるとともに、個別に対応していく必要がある。
		一か年皆勤者率を60%以上とする。 A:60%以上 B:59~55% C:54~50% D:49~45% E:44%以下	E	2学期末の時点で、1年生46.2%、2年生35.9%、3年生37.1%、学校全体39.9%であった。	<ul style="list-style-type: none"> ・長欠の生徒が数名いる。個々に応じた対応を考えていく必要があるが、現実には困難である。 ・昨年度は、新型コロナウイルス感染症が5類となり、5月から出席停止の取扱いが変更されたため、欠席者が増加したが、今年度は各学年とも皆勤者率が上昇し、改善傾向が見られる。 ・「無理をせず休む」という価値観の変化という側面も考えられる。

生活指導	交通安全指導の充実	交通死亡事故などの重大事故0件、軽微な交通事故年間5件以内とする。	C	1月20日現在、重大事故は0件、軽微な事故は11件、交通違反による指導は6件であった。	重大事故0件は達成しなければならない目標である。そのためにも、交通違反やマナー違反の指導件数が減少するように指導を徹底し、限りなく交通事故0件を目指していく。
	健康管理指導の充実	生徒の健康や安全に関する指導への満足度85%以上を目指す。 A:85%以上 B:84~80% C:79~75% D:74~70% E:69%以下	B	今年度は怪我の件数が増加しており、感染症の予防と併せて対策を講じていかなければならない。	体調管理については、感染症対策や予防など自己管理ができるようにプリントだけでなく、機会を設けて個々に指導していく必要があると考える。
	環境美化指導の充実	清掃活動などを通じた環境美化への評価85%以上を目指す。 A:85%以上 B:84~80% C:79~75% D:74~70% E:69%以下	C	清掃時間の取組には個人差があり、各担当場所で生徒の環境美化に対しての意識を高めていきたい。校内の施設等の修理についてはその都度行うことができていた。	環境整備委員をリーダーとして、校内の環境美化や整備について具体的に考えさせて、意識を高く持たせたいと考える。
	教育相談の充実	生徒の悩みに対する適切な相談・助言及び、援助が必要な生徒に対する適切な支援体制を充実させ、生徒・保護者の安心感85%を目指す。 A:85%以上 B:84~80% C:79~75% D:74%~70% E:69%以下	B	本年度からスクールソーシャルワーカーとの相談も可能になり外部機関との連携がスムーズになったこともあり、来談者のうち80%以上が安心感を得ることができた。	教育相談担当教員やSLA、SSWの存在や教育相談室の利用方法について、教育相談だよりやホームページを活用して、生徒・保護者への周知を徹底し、自発来談しやすい環境作りをする。
	特別活動の充実	生徒会活動の活発化への満足度90%以上を目指す。 A:90%以上 B:89~85% C:84~80% D:79~75% E:74%以下	C	生徒の意見を集めて、要望事項を学校に提出するなど新たな取組が見られた。	生徒会を中心として、以前の学校行事や新たな取組をしていきたい。教師側と生徒側の話し合いを密にしていきたい。
		学校行事の創意工夫による生徒の満足度90%以上を目指す。 A:90%以上 B:89~85% C:84~80% D:79~75% E:74%以下	B	生徒の評価は、85%と高いものであった。それぞれの行事で日頃見られない生徒の表情が印象的であった。	生徒会を中心として生徒の意見などを取り込み、学校行事を運営していきたい。
		ホームルーム活動の満足度90%以上を目指す。 A:90%以上 B:89~85% C:84~80% D:79~75% E:74%以下	C	生徒・保護者・教師の評価は、80%で、例年と変化はみられない。	ホームルームで、生徒が主体的に活動する場面を多くしていく必要があると感じる。
	部活動の活性化	全ての部活動を充実させる。 全国大会出場部数、10部以上 A:10部以上 B:9~7部 C:6~5部 D:4~3部 E:2部以下 県総体出場者数、250名以上 A:250名以上 B:249~245名 C:244~240名 D:239~235名 E:234名以下 高文祭出場者数、80名以上を目指す。 A:80名以上 B:79~70名 C:69~60名 D:59~50名 E:49名以下 部活動の満足度90%以上を目指す。 A:90%以上 B:89~85% C:84~80% D:79~75% E:74%以下	A	具体的目標は、ほぼ達成することができた。学校評価アンケートにおいても91%の生徒が、部活動は活発であると答えている。	さらに高みを目指していきたい。また、数年間かけて部活動の精選が必要となってきた。精選し顧問の手厚い指導ができるようにしていきたい。

進路指導	進学指導の充実	国公立大学への合格者数を商業科10名以上、普通科70名以上を目指す。 難関10大学及び国公立大学医学部医学科5名以上の合格者数を目指す。 A:80人以上 B:79人～70人 C:69人～60人 D:59～50人 E:49人以下 難関大学合格を含め、総合的に判断する。	E	12月末現在で、国公立大学の合格者数は、商業科4、普通科14、合計18であり、商業科は目標を達成できていなかった。商業科は例年よりも国公立大学進学希望者数自体が少なかったこともあるが、合格率は例年よりもかなり低く、普通科もかなり苦戦している状況である。	低学年時から、もっと進路意識を高めておく必要がある。また、難関10大学及び国公立大学医学部医学科5名以上の合格を達成するためには、まずそのレベルを目指す生徒を10名以上育てることが望ましく、希望者を募り個別指導をしたり、難関大学対応の模擬試験等も考えさせる必要がある。
	就職指導の充実	商業科生徒の卒業時における全商検定3種目以上1級取得者85%以上を目指す。 A:85%以上 B:84～80% C:79～75% D:74～70% E:69%以下	E	商業科卒業生66名中44名が3種目以上の1級に合格し、取得者は66.7%であった。	早い時期から多種目合格を目指す雰囲気を作る必要がある。多種目合格は進路実現に大きなアドバンテージになることをもって意識させなければならない。授業者は、各自授業改善に努めるとともに、生徒たちの自主的な学習のサポートに取り組んでいきたい。
	就職指導の充実	就職内定率100%を達成する。 A:100% B:99～95% C:94～90% D:89～85% E:84%以下	A	公務員3名を含め、就職希望者12名は1次選考で内定している。女子の求人は、希望の事務職に就くことができた。	企業への就職は、地元企業に限れば安定している。特に、男子生徒は公務員への採用実数を伸ばしたい。
	進路情報提供の適切度	生徒・保護者に対する適切な進路情報の提供及び保護者との連携への満足度90%以上を目指す。 A:90%以上 B:89～80% C:79～70% D:69～60% E:59%以下	C	進路情報の提供については、生徒80点、保護者72点であり、保護者との連携については生徒79点、保護者66点であった。わずかではあるが昨年度よりも上昇している。	学校からの連絡プリントや進路情報誌の配布、及びホームページからの情報発信だけでなく、TeamsやClassを更に活用して、生徒や保護者の端末等に即座に情報を届けていきたい。
家庭・地域連携	PTA活動の充実	理事会・総会・研修会の活性化と参加率50%を目指す。 A:50%以上 B:49～45% C:44～40% D:39～35% E:34%以下	D	昨年度から通常のPTA活動が可能になり、今年度も活発な活動が行われた。参加率については、PTA理事会は平均で46.6%(46.3%)、PTA総会は22.3%(17.9%)であり、平均すると34.5%であった。*()内は昨年度のデータ	共稼ぎの家庭が多いこともあってか、平日開催の学校行事等への参加は難しいことがうかがえる。しかし、文化祭のバザーでは多数の保護者からのサポートをいただき、大成功であった。保護者は本校に対して協力的であるので、それを生かせる工夫をしたい。
	学校評価の充実	学校関係者評価委員会の活性化及び学校評価アンケートの各評価項目において生徒・保護者・教職員、いずれも90%を目指す。 A:90%以上 B:89～80% C:79～75% D:74～60% E:59%以下	C	学校評価アンケートの集計平均結果では、生徒76点(76点)、保護者75点(72点)、教職員79点(79点)であり、ほとんど昨年度と同様であった。保護者の結果から、本校は、部活動や学校行事が盛んであり、学校生活が生徒の将来にとって有益であると考えている方が多いということがわかる。*()内は昨年度のデータ	学校評価アンケート集計平均結果は、生徒・保護者・教職員ともに75点以上で、比較的高い水準にある。今後は、生徒の基礎学力の定着を図るとともに、学校と家庭の連携をさらに密にし、両者が共に生徒の成長を実感できるような学校を目指したい。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	C	部活動指導で勤務時間が増える傾向がある教員に対し、校長面談を行い、健康指導を実践した。	オフシーズンの練習方法の見直しや、複数顧問による交代制での指導を工夫して行う。部活動の精選を行う予定。
	職場環境の整備	健康保健室だよりや健康診断の結果から健康相談を定期的実施し、教職員の疲労や心理的な負担の軽減を図る。	C	ストレスチェックの結果が平均より低くなる項目が見られた。ただ、本校留任を希望する教職員がほとんどである。	教職員同士のコミュニケーションアップや仕事の均等化を図り、教職員の心身の健康を促す。職員室の環境整備(空調、清掃等)の徹底。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。